

2021 年度事業報告

学会の目的達成のため、定款の定めるところにより、事業計画に掲げた次の事業を実施した。

I. 調査と研究の推進

1. 研究部会による調査・研究

14 研究部会がそれぞれの事業計画に基づいて調査・研究を実施した。研究集会等を開催したほか、6 研究部会が部会誌を発行した。

部 会	部 会 長 (所 属)	会 員 数 (名)	研究集会 等の開催	部会誌発行
応 用 水 理	一 恩 英二 (石川県立大学)	63	12月11日	令和3年度「応用水理研究部会講演集」
土 壌 物 理	藤 卷 晴行 (鳥取大学)	178	10月29日	
材 料 施 工	森 丈久 (石川県立大学)	50	2月3日	「材料と施工」 No. 59
農 村 計 画	治 多 伸介 (愛媛大学)	50	開催なし	
農 業 水 利	松 井 宏之 (宇都宮大学)	30	開催なし	
農 地 保 全	藤 川 智紀 (東京農業大学)	86	12月6日	「農地保全の研究」 No. 41
畑 地 整 備	石 川 雅也 (山形大学)	100	開催なし	
水 文・水 環 境	近 森 秀高 (岡山大学)	93	開催なし	「応用水文」 No. 34
農 村 道 路	川 端 伸一郎 (北海道科学大学)	23	2月17日	「農村道路」 31号
水 土 文 化	渡 邊 紹裕 (熊本大学)	26	3月16日	
資 源 循 環	凌 祥之 (九州大学)	512	開催なし	
農 村 生 態 工 学	角 道 弘文 (香川大学)	60	9月2日 7月28日 1月31日	
農 業 農 村 情 報	溝 口 勝 (東京大学)	84	3月4日	
農 業 農 村 整 備 政 策	飯 田 俊彰 (岩手大学)	213	11月2日 1月22日	「農業農村整備政策 研究」 No. 8

2. 新たな研究ニーズへの対応

学会の研究活動の発展に対して新しい芽になる研究を行おうとする研究グループの募集を行い、1件の助成を行った。

代表者	所属	研究テーマ
栗原 良樹	山形大学農学部・助教	営農型太陽光発電の導入が水稻の生長へ及ぼす影響の定量的評価

また、戦略的研究申請支援として、1件の助成を行った。

代表者	所属	研究テーマ
福田 信二	東京農工大学・准教授	流域水・物質循環を考慮した生態水理解析システムの構築

さらに、(公財)鹿島学術振興財団の2022年度研究助成について、本学会より推薦した3名が継続採択された。

採択者	所属	研究テーマ	備考
乃田 啓吾	岐阜大学応用生物科学部・准教授	ため池群の提供する生態系サービス評価手法の提案	継続
山本 晴彦	山口大学大学院創成科学研究科・教授	令和期に洪水災害に見舞われた牛津川・球磨川における水害リスク評価と遊水地導入に関する住民意識調査	継続
木村 延明	農研機構農村工学研究部門・上級研究員	転移学習の導入によって、深層学習のデータ量・質に関する弱点を克服するための水位予測手法の開発	継続

「農業農村整備に関する技術開発計画」について、農林水産省からの受託により官民連携新技術研究開発事業等の優良事例調査を踏まえた新技術の導入方策に関する調査検討を行った。

3. 学術基金等による調査研究の奨励

(1)学術基金による調査研究を奨励するため公募を行い、学術基金運営委員会による審査を経て1名の研究奨励援助者及び学際的分野に関する調査・研究の推進に対して1名の援助者を決定し、資金を助成した。

<研究奨励援助者>

申請者	所属	研究テーマ
辰野 宇大	福島大学環境放射能研究所プロジェクト研究員	福島県を中心とした放射能汚染地の土壌環境におけるCsMP分布評価

<学際的分野に関する調査・研究の推進>

申請者	所 属	研究テーマ
宮永 政光	岡山理科大学理学部 ・講師	岡山県児島湖における水質調査および底質成分の水質への影響

(2) 博士人材のキャリアパスの構築と学生が博士課程で取り組む研究課題を決定

研究委員会による調査から大学において博士課程の学生が少なく、重要な課題と認識し、支援方法として博士人材のキャリアパスを構築した。それをもとに日本水土総合研究所等と連携して、研究委員会の下に「博士人材育成研究小委員会」を設置し、募集要領等を定め、募集を開始し、修士課程2年生を対象に4つの研究課題を定め、4名の学生の支援を決定し、2022年度の研究助成金を支出した。また、修士課程1年生を対象とした研究課題の募集も開始した。

4. 新型コロナウイルス感染拡大に対する学生会員への支援

3月16日に理事会を開催し、新型コロナウイルスの影響を踏まえて学生会員の2021年度の年会費を引き続き免除することを決定した。

II. 研究発表会、講演会、講習会、セミナー展示会等の開催

1. 大会講演会の開催

2021年度（第70回）農業農村工学会大会講演会は、福島大学において開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの収束が見通せないことから、安心して安全な大会講演会とするため、オンラインでの開催に変更いたしました。概要は次のとおりである。

- 期 日 2021年8月31日（火）、9月1日（水）、2日（木）
- 会 場 オンライン
- 参 加 者 1,302人（一般992、学生310）（2020年度 1,013人（一般831、学生182））
- 挨 拶 大会運営委員長 樽屋啓之（オンライン）
学会長 平松和昭（オンライン）
- 来 賓 挨 拶 農林水産省農村振興局次長 安部伸治（オンライン）
- 学 会 賞 学術賞 1件1名（中嶋 勇）
上野賞 2件6団体（東北農政局防災課・仙台東土地改良建設事業所・宮城県・仙台市・仙台東土地改良区）、（埼玉県農村整備課）
沢田賞 1件2団体（農研機構農村工学研究部門 農地基盤情報研究領域 地域防災グループ・施設工学研究領域 施設整備グループ）
研究奨励賞 2件2名、技術奨励賞 1件6名、優秀論文賞 3件11名、優秀報文賞 1件3名、優秀技術賞 1件5名、優秀技術リポート賞 7件13名、著作賞 2件11名、歴史・文化賞 1件1団体、地域貢献賞 3件1名2団体、国際貢献賞 2件2名、メディア賞 1件1団体、功労賞 3件3名
- 一 般 講 演 8月31日（火）～9月2日（木）Zoom7会場
Zoomによる口頭発表 一般210課題、スチューデントセッション16課題、企画セッション17件75課題
ポスター発表 一般56課題、スチューデントセッション4課題、ポスター賞 なし
要旨のみ掲載 一般36課題、企画セッション1件4課題
- 交 流 会 なし
- 現 地 研 修 なし
- 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！2021”で「農業農村整備」に関する

テーマで募集し、5件の応募があり、最優秀賞1件、優秀賞2件を決定するとともに動画配信を行った。

2. 各支部研究発表会、講演会、講習会等の開催

6支部において、それぞれ研究発表会、地方講習会、研修会及び人材確保・育成等に関する講演会等を開催した。

<各支部研究発表会>

(研究発表総件数 345 件、参加者総数 783 名、現地見学者総数 0)

支 部	開催月日	開催場所	研究発表者件数	参加者数	現地見学者数	本 部出席者
			件	名	名	
北海道 (第70回)	11月10日	オンライン	13	120	—	平松会長 (ライブ配信挨拶)
関 東 (第72回)	11月8日 ～11月19日 11月12日	オンライン	54	115	—	平松会長 (挨拶動画)
京 都 (第78回)	11月15日 ～12月27日、	オンデマンド	78	215	—	平松会長 (挨拶動画)
中国四国 (第76回)	12月10日 ～1月30日	オンデマンド	33	127	—	平松会長 (挨拶動画)
九州沖縄 (第102回)	11月11日	オンライン	47	206	—	平松会長 (ライブ配信挨拶)

<各支部地方講習会>

(参加者総数約 563 名)

支 部	開催月日	開催場所	テーマ	講師	参加者数
				名	名
北海道	1月12, 19日	動画配信	新たな土地改良長期計画について外2件	3	230
関 東	11月8日 ～19日	オンライン	新たな土地改良土地改良長期計画について外2件	3	115
京 都	2月15日	オンライン	ため池防災支援等の概要について	2	91
中国四国	12月10日 ～1月30日	オンデマンド	新たな土地改良土地改良長期計画について外2件	3	127
九州沖縄	12月1日 ～24日	オンデマンド	新たな土地改良土地改良長期計画について外2件	3	—

<各支部研修会>

(参加者総数約 92 名)

支 部	開催月日	開催場所	テーマ	講師	参加者数
京 都	2月15日	オンライン	新たな土地改良長期計画について	1名	92名

<各支部シンポジウム>

(参加者総数約 328 名)

支 部	開催月日	開催場所	テーマ	講師	参加者数
関 東	12月17日	オンライン	近年の豪雨に対する理解と対策及びデータサイエンスの活用	3名	170名
九州沖縄	11月11日	オンライン	流域治水における農業農村工学分野の貢献と課題	4名	158名

<各支部人材確保・育成・その他行事>

(参加者総数約 24 名)

支 部	開催月日	開催場所	行 事 名	講師	参加者数
北 海 道	11月10日	オンライン	第20回支部賞表彰	—名	9名
関 東	2月28日	オンライン	業界セミナー	4名	15名
九州沖縄	11月11日	オンライン	水害緩和機能における諫早湾干拓事業と韓国セマングム干拓事業の比較（佐賀県立農業高校）	4名	—名

3. 研究部会や委員会による研究集会等の開催

(1) 14の研究部会はそれぞれ次のとおり研究集会等を開催した。

(参加者総数 1,079 名)

部 会	研 究 集 会 等			
	開催月日	開催場所	行 事 名	参加者数
応 用 水 理	9月2日	オンライン	企画セッション	37名
	12月11日		研究集会	30名
土 壌 物 理	10月29日	オンライン	第60回研究集会	45名
材 料 施 工	2月3日	オンライン	第58回シンポジウム	64名
	9月1日		企画セッション	90名
農 村 計 画	9月2日	オンライン	企画セッション	50名
農 業 水 利			開催なし	—名
農 地 保 全	9月1日	オンライン	企画セッション	50名
	12月6日		研究発表会	30名

畑地整備	8月31日	オンライン	企画セッション	34
水文・水環境			開催なし	-
農村道路	2月17日	オンライン	研究集会	32
水土文化	3月16日	オンライン	研究集会	17
資源循環	9月1日	オンライン	企画セッション	40
農村生態工学	9月2日		研究修会(企画セッション)	150
	7月28日	オンライン	勉強会	15
	1月31日		〃	14
農業農村情報	8月31日	オンライン	企画セッション	85
	3月4日		勉強会	71
農業農村整備 政策	9月1日		企画セッション	124
	11月2日	オンライン	研究集会	63
	1月22日		研究会	38

(2) 行事企画委員会は、全国農村振興技術連盟との共催で第53回中央研修会を開催した。

期 日 2022年3月4日(金)

会 場 オンライン開催

テーマ 持続可能な食料システムの構築をめざして

講 師 5名 参加者数 435名

Ⅲ. 学術と技術の評価及び表彰

1. 学会賞、上野賞及び沢田賞の授与

学会賞、上野賞及び沢田賞それぞれの選考委員会を設置して、学術・技術における優れた業績を選考し次の31件に授与した。なお、新型コロナウイルスの収束が見通せないことから、安心して安全な大会講演会とするため、大会講演会がオンラインでの開催となったことから、受賞者には賞状と副賞を郵送した。なお、学術賞、上野賞、沢田賞の受賞者はオンラインで受賞者講演を行った。

【学術賞】 農業水利施設に関するストックマネジメントの展開および劣化予測技術向上に関する研究

農研機構農村工学研究部門 中嶋 勇

【研究奨励賞】 大規模な実験によるため池等の耐震性評価とGCLによる対策技術開発に関する一連の研究

神戸大学大学院農学研究科 澤田 豊

【研究奨励賞】 農業用パイプラインの埋設時の挙動解明および長期性能評価に関する一連の研究

農研機構農村工学研究部門 有吉 充

【技術奨励賞】 無人航空機を使った農業水利施設等の計測・点検技術

国際航業(株) 金子 俊幸・井下 恭次・藤家 亘

農研機構農村工学研究部門 関島 健志

農林水産技術会議事務局 桐 博英

農研機構 白谷 栄作

【優秀論文賞】 時間領域透過法(TDT)センサを活用した干拓農地の土壌水分および塩分の観測

佐賀大学農学部 平嶋 雄太・宮本 英揮・弓削 こずえ

【優秀論文賞】決定木を用いた道路橋RC床版における遊離石灰抽出に関する研究

北里大学獣医学部 島本 由麻
新潟大学大学院自然科学研究科 萩原 大生
新潟大学農学部 鈴木 哲也

【優秀論文賞】農業用管水路で生じる地震時動水圧

土木研究所寒地土木研究所 大久保 天・中村 和正・今泉 祐治・
寺田 健司・川口 清美

【優秀報文賞】水田地域が有する雨水貯留機能による豪雨対策

九州大学大学院生物資源環境科学府 西小野 康平
九州大学大学院農学研究院 谷口 智之・凌 祥之

【優秀技術賞】ため池の洪水軽減効果の簡易推定法

神戸大学大学院農学研究科 田中丸 治哉
阪急阪神ホールディングス(株) 立林 信人
兵庫県 森 怜菜
大阪府 板倉 慎一郎
神戸大学大学院農学研究科 多田 明夫

【優秀技術レポート賞】新技術(管渠ドローン)を採用した農業水利施設の機能診断

北王コンサルタント(株) 曾我部 浩二・扇谷 泰子
北海道オホーツク総合振興局 小笠原 剛

【優秀技術レポート賞】小口径パイプラインにおける管内カメラ調査

関東農政局土地改良技術事務所 坂本 良子
環境省自然環境局 上條 剛

【優秀技術レポート賞】農業高校の生徒による人工湿地の改善と水質浄化機能の評価

北海道帯広農業高等学校 高山 裕司

【優秀技術レポート賞】農業用ため池廃止工事の施工事例

秋田県由利地域振興局 佐藤 哲哉・西澤 航平
興建エンジニアリング(株) 北林 義久

【優秀技術レポート賞】コンテナバックを用いた現場練コンクリートによるため池改修

千葉県安房農業事務所 青柳 義雄

【優秀技術レポート賞】ため池の常時満水位の低下による地震および洪水対策

大阪府北部農と緑の総合事務所 東野 智幸・板倉 慎一郎

【優秀技術レポート賞】鳥取県日野川流域の少雪化傾向と春期の渇水の関係

アイサワ工業(株) 有森 正浩

【著作賞】土木のずかん全3巻の著作

(株)ウォールナット 速水 洋志
(株)技術開発コンサルタント 水村 俊幸
(株)ウォールナット 稲垣 正晴
(株)栄設計 吉田 勇人

【著作賞】ドロえもん博士のワクワク教室「土ってふしぎ!？」～放射性セシウムに対する土のはたらき～の著作

東京大学大学院農学生命科学研究科 溝口 勝
弘前大学農学生命科学部 加藤 千尋
茨城大学農学部 西脇 淳子
四日市大学環境情報学部 廣住 豊一
三重大学大学院生物資源学研究科 坂井 勝
佐賀大学農学部 徳本 家康
三重大学大学院生物資源学研究科 渡辺 晋生

【歴史・文化賞】安積開拓の歴史と文化の継承に関する一連の業績

安積疏水土地改良区

【地域貢献賞】東京電力福島第1原発事故に伴う放射能汚染地域の営農再開に向けた貢献

農研機構農業環境変動研究センター 万福 裕造

【地域貢献賞】 災害復旧の技術支援を通じた農村の活力向上に向けた取り組み
福島県土地改良事業団体連合会

【地域貢献賞】 原発事故による被害地域の生活と産業の再生に対する貢献
ふくしま再生の会

【国際貢献賞】 フィリピンを事例とした政府開発援助による農業農村開発の効果的な実施制度に関する研究

日本工営(株) 河原 行弘

【国際貢献賞】 PAWEESの主導的運営活動による国際的な貢献
近畿大学大学院農学研究科 松野 裕

【メディア賞】 農業農村工学の次代を担うエンジニアの確保・育成に貢献するプロモーションツールの制作

(一社)農業土木事業協会

【功労賞】 農業農村整備の推進に関する技術振興と技術者教育への取組
大浦 直司

【功労賞】 新時代における学会運営への貢献と広報活動の展開
三信建設工業(株) 佐々木 清貴

【功労賞】 技術者継続教育の推進と技術者育成への貢献
西野 一秀

【上野賞】 仙台東地区における東日本大震災からの復旧・復興の取組
東北農政局防災課
仙台東土地改良建設事業所
宮城県
仙台市
仙台東土地改良区

【上野賞】 事業効果を短期間で上げる埼玉型ほ場整備事業
埼玉県農村整備課

【沢田賞】 ため池防災支援システムの開発と普及に関する一連の業績
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門
農地基盤情報研究領域 地域防災グループ
施設工学研究領域 施設整備グループ

※今年度は、教育賞、環境賞の該当はなかった。

2. 全国土地改良優良工事等表彰

全国土地改良優良工事等審査会を設置して、優良工事等の中から最優秀賞を選定し、6月21日に学士会館において、次の1件に授与した。

授賞者：前田建設工業株式会社

対象工事：2018年度沖縄総合事務局長表彰

伊江農業水利事業 伊江地下ダム東工区（その2）整備工事

3. 他学術関係団体への賞等の推薦

学術振興のため、また存在意義を強化するため、文部科学大臣賞若手科学者賞、日本農学会賞、日本農業工学会賞に候補者を推薦した。その結果、京都大学の村上 章副学長が日本農学会賞を受賞した。東京大学の溝口 勝教授が日本農業工学会賞、三重大学の成岡 市名誉教授、農研機構の北川 巖グループ長補佐、高知大学の松本 伸介教授、宮城大学の北辻 政文教授が日本農業工学会フェローを受賞した。

IV. 学会誌、その他農業農村工学に関する資料、図書の編集・刊行

1. 学会誌の発行

委員長ほか委員等 26 名、専門委員 67 名による学会誌企画・編集委員会を編成し、3 回の本委員会と 24 回の編集に関連するメール会議、表紙写真の小委員会を開催し、第 89 巻 4 号から第 90 巻 3 号までの 12 冊を発行した。本文は合計 958 頁で、前年度と同様に主として小特集形式で編集した。新型コロナウイルスの感染拡大により発出された緊急事態宣言のさなかの小特集として、第 89 巻第 4 号「With/Post・コロナ時代の農業・農村のあり方」を企画した。多くの会員が共通して興味を持つと考えられるテーマとして、第 89 巻第 10 号「農業農村工学におけるデジタルトランスフォーメーション」、第 89 巻第 11 号「政策のグリーン化に向けた農業農村整備の新たな展開」を掲載した。また、国立大学法人第 3 期中期目標終了、研究開発法人の第 5 期中長期目標（5 年間）スタートに伴い、第 90 巻第 1 号「国立大学法人および研究開発法人の新たな展開方向」を、人材育成に関連した小特集として、第 89 巻第 6 号「研究・教育を担う人材育成と学術評価のあり方」、第 90 巻第 3 号「人材の確保・育成に向けた道・県の取組み最前線」を掲載した。なお、第 90 巻第 2 号は自主投稿号とし、10 本の自主投稿報文を掲載した。

2. 論文集の発行

委員長ほか委員 10 名による論文集企画・編集委員会を編成し、1 回の本委員会及び各論文についてオンライン会議をそれぞれ開催して 96 編の論文等の審査を行い、逐次オンラインジャーナルに掲載するとともに、第 311 号と第 312 号の 2 冊を発行した。本文は合計 525 頁で、研究論文 42 題、研究報文 12 題、研究ノート 4 題の合計 58 題を掲載した(2021 年 1 月～12 月で整理)。

3. PWE 誌の発行支援

PAWEES（国際水田・水環境工学会）による PWE（Paddy and Water Environment）誌の編集・発行の調整、投稿の啓発、並びに購読者の確保と配付等を支援した。PWE 誌はオンラインジャーナルであり、Vol. 19 No. 2 から Vol. 20 No. 1 までの 4 冊が発行された。ARTICLE 41 題、EDITORIAL 1 題、TECHNICAL REPORT 1 題、REVIEW 1 題の合計 44 題を掲載した。またインパクトファクターは 1.517 と過去最高の値になり、国際ジャーナルとしての位置づけがますます向上している。

4. その他農業農村工学関係図書の企画・編集・刊行と既刊図書の増刷等による技術の普及

土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「暗渠排水」、設計「パイプライン」の改訂版を発行した。その他残部の少なくなった土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「頭首工」、計画「ほ場整備（畑）」及び土地改良事業設計指針「ため池整備」の既刊図書の増刷発行を行い、技術の普及を図った。

V. 学術と技術の学際的な連携協力

1. 行政と大学の連携強化についての調査、支援

行政と大学の連携をより一層図り、学会の活性化を進めるため、行政（国等）から大学教員への農業農村整備に係る研究資金等の強化が図れるよう、行政との連携強化を関係方面に要請した。特に、国営事業所が抱える技術的課題を各農政局等に依頼し、全国から 52 件の課題が寄せられ、その調査結果を支部担当理事会などで情報共有した。

その一方、大学の抱える課題を理事会や行政と共有し、多様な連携が年々進展し、これまで以上に連携協力が図られた。

2. 農業農村整備事業に関する受託等研究

学術と技術の検討に関する調査研究業務として、農業用ダムの設計・施工・管理技術の高度化、技術開発計画の推進、放射性物質で汚染された地域の汚染拡散防止対策技術等に関する8件の委託等を受け、研究を実施した。実施に当たっては、農業農村工学以外の専門領域とも連携し、それぞれ専門の学識経験者からなる委員会を組織して対応した。

3. 災害対応等、自主的調査・研究

各研究部会は、それぞれの関連学協会と連携協力して自主的な調査・研究を実施した。

4. 関係学協会との各種会議の共催・後援等

次の20件の行事について、共催・後援等を行った。

また、人材の育成、確保等について他の団体とも連携協力を行いながら、様々な取組みを行っており、その一環として、(一社)土地改良建設協会が実施した「国営事業地区等フィールド調査学生支援事業」や「農業農村工学系の大学生のための技術研究所の見学会」について支援を行った。

行 事 名	主催者名	開催年月日	種別
1. 第23回 (2021年) 日本水大賞	日本水大賞委員会、 国土交通省	2021.04.01 受賞者発表	後援
2. 復興農学会公開シンポジウム - 農業の持続的復興のために -	復興農学会	2021.06.26	後援
3. 第58回アイソトープ・放射線研究発表会	公益社団法人 日本 アイソトープ協会	2021.07.07 ~09	協賛
4. 日本混相流学会 混相流シンポジウム 2021	日本混相流学会	2021.08.22 ~24	協賛
5. 第37回 ファジィ システム シンポジウム (FSS2021)	日本知能情報ファジィ 学会	2021.09.13 ~15	協賛
6. 第64回 粘土科学討論会	一般社団法人 日本粘 土学会	2021.09.14 ~18	後援
7. 2021年度 計算力学技術者 (CAE 技術者) 資格認定事業	一般社団法人 日本機 械学会	認定試験日 2021.09.19, 09.25, 12.09 12.10, 12.16	協賛
8. 令和3年度 農業農村整備サマーセミナー	全国農村振興技術連盟	2021.09.28	後援
9. 第11回 農業Week 第5回 関西 農業Week	RX Japan株式会社	2021.10.13 ~15 2022.03.09 ~11	後援
10. GPS/GNSSシンポジウム2021	一般社団法人 測位航 法学会	2021.10.27 ~29	協賛
11. 第13回「梶木賞」論文の募集	全国農村振興技術連盟	応募〆切 2021.10.29	後援

12. 2021 年度土壌物理学大会	土壌物理学会	2021. 10. 30	協賛
13. 日本腐植物質学会 第37回講演会	日本腐植物質学会	2021. 11. 26 ～27	協賛
14. 「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2021	全国土地改良事業団体連合会、都道府県土地改良事業団体連合会	2021. 12. 04 ～11	後援
15. 第20回 キャビテーションに関するシンポジウム	日本学術会議 第三部、第20回キャビテーションに関するシンポジウム実行委員会	2021. 12. 09 ～10	共催
16. 令和3年度 田園自然再生活動の集い	一般社団法人 地域環境資源センター	2021. 12. 14	後援
17. 第30回 微粒化シンポジウム	日本液体微粒化学会、日本エネルギー学会	2021. 12. 16 ～17	協賛
18. 日本エネルギー学会 第17回バイオマス科学会議	一般社団法人 日本エネルギー学会 バイオマス部会	2022. 01. 19 ～20	協賛
19. 令和3年度 ADCA セミナー「国際協力という選択 海外農業農村開発の実践」	一般社団法人 海外農業開発コンサルティング協会	2022. 01. 22	後援
20. 第7回 理論応用力学シンポジウム	日本学術会議 機械工学委員会・総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同理論応用力学分科会	2021. 03. 11	共催

5. 関係学協会との研究情報交換

日本農学会、日本農業工学会等の関係学協会に加盟、あるいは活動に協力し、幅広い学術・技術の研究情報交換を行った。

6. 関係学術・技術団体への代議員・委員会委員の推薦

日本学術会議、日本農学会、日本農業工学会等の学術団体や農業農村整備関係の技術団体に代議員や委員会委員等を推薦し、学術と技術の学際的な連携協力を推進した。

VI. 学術と技術の国際交流

1. 海外関係機関との学会誌・論文集等の文献交換

学会誌は 28 機関、論文集は 48 機関、全体で 56 機関との間で継続的に文献を交換した。

2. 国内外及び国際的関連学会等との学術・技術の交流

韓国農業工学会(KSAE)と台湾農業工学会(TAES)との間で、アジアモンスーン地域における持続可能な水資源と環境の管理等に関する情報交換を行った。

3. 水田農業地域における農業工学の技術者育成に関する国際交流

2020年秋に台湾台北市で開催が予定されていたPAWEES国際会議は世界的な新型コロナウイルス感染症の蔓延のため1年延期されたが、引き続き新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のため、10月29日にオンラインで開催した。

4. PAWEES活動の支援

PAWEESの理事学会としてPWE誌の出版のほか、PAWEES運営について支援した。

VII. 学術と技術の広報

1. 大学生のためのLINE公式アカウントの作成

若手人材の確保と育成のため、連携協定を締結している土地改良建設協会主導の下に「大学生のためのLINE公式アカウント」を作成し、情報提供を行った。

また、LINEを通じて参加した学生を対象に「WEBで座談会先輩に何でもきいちゃおう!」も開催した。

毎号の学会誌、ホームページにおいて、各種行事や公募事項の案内などの情報提供を行った。また、メールマガジンにより、会員、非会員を問わず情報提供を行った。

さらに、全国高等学校農業教育研究協議会環境技術・創造部会の農業土木に所属する農業高校65校の他に全国専門学校土木教育研究会に属する16校にも学会誌の提供を行った。

2. 会員の意見、要望等を把握し、学会活動等に反映

Webアンケートシステムにより会員等の意見、要望を把握して学会活動等に反映すると共に、学会誌会告欄で支部や研究部会の活動情報の周知に努めた。

また、進学情報会社が配布する高校生用の進学冊子「農学事典」に当学会のQRコードが掲載されている。

3. 関係学協会等との文献の交換

学会誌は178機関、論文集は24機関、全体で183機関との間で継続的に文献を交換した。

VIII. 関係図書その他資料の収集、保管、活用

1. 関係図書・資料の収集、整理、利活用

農業農村工学関係図書・資料について、交換資料と購入資料を収集・整理した。また、学会誌に年表を掲載するための資料の収集、分類を行った。収集資料は、訪問者の閲覧に供し利活用を図った。

2. 科学技術振興機構によるJ-STAGEへの掲載

科学技術振興機構(JST)の総合電子ジャーナルプラットフォーム(J-STAGE)に掲載されていない学会誌報文第86巻～第87巻を掲載するため作業を進めた。

3. 科学技術振興機構への情報提供

J-STAGEに掲載するため、論文集の内容を検索データとして62編を提供したほか、学会誌、論文集、学会大会講演会及び支部研究発表会の講演要旨集の情報を提供した。

4. 農林水産研究情報総合センター事業「AGROPEDIA」への情報提供

農林水産研究情報総合センターから掲載依頼を受け、農業農村工学会誌(第87巻第1号～第88巻12号)及び農業農村工学会論文集(第308号～第311号)の情報を

提供した。

IX. 技術者教育認定及び技術者の継続的研鑽の支援

1. 日本技術者教育認定機構(JABEE)の審査認定及び普及指導活動

農業工学及び関連のエンジニアリング分野の審査・認定活動を推進する学協会として、JABEE認定に関する普及指導活動を行った。また、JABEEのメリットを活かす対策として学会の要請等を受けて2020年度より(公社)土地改良測量設計技術協会は、資格制度を運用する「農業土木技術管理士」資格試験において、JABEE修了生は第一次試験を免除し、併せて受験資格の実務経験年数を3年短縮する特例措置の対象となっている。

＜2022年4月時点でのJABEEプログラム：13教育機関13プログラム＞

弘前大学 農学生命科学部 地域環境工学科 農業土木コース[2005]

北里大学 獣医学部 生物環境科学科 環境修復プログラム[2006]

宇都宮大学 農学部 農業環境工学科 水土環境工学及び食料生産システム工学コース[2003]

東京農業大学 地域環境科学部 生産環境工学科 農業工学プログラム[2003]

日本大学 生物資源科学部 生物環境工学科 地域環境工学プログラム[2003]

三重大学 生物資源学部 共生環境学科 地域環境デザイン学教育コース 農業土木学プログラム[2005]

神戸大学 農学部 食料環境システム学科 生産環境工学コース 地域環境工学プログラム[2004]

島根大学 生物資源科学部 地域環境科学科 地域工学教育コース[2006]

岡山大学 環境理工学部 環境管理工学科[2004]

愛媛大学 農学部 生物環境学科 地域環境工学コース 農業土木プログラム[2002]

高知大学 農林海洋科学部 農林資源環境科学科 生産環境管理学プログラム[2005]

九州大学 農学部 生物資源環境学科 生物資源生産科学コース 生物生産環境工学分野

農業土木プログラム[2005]

琉球大学 農学部 地域農業工学科 地域環境工学コース[2008]

2. 技術者継続教育機構等による農業農村工学分野の技術者育成・継続教育の推進

技術者継続教育機構において、CPD評議委員会1回、CPD運営委員会1回、CPD評価委員会1回、CPD地方委員会1回、CPD通信教育部会12回を開催し、技術者育成・継続教育の推進を図った。

2021年度末時点でのCPD個人登録者数は14,779名であり、CPD法人登録者数は196団体であった。また、2021年度内実施の認定プログラム数は1,401件であった。

3. 技術者の育成及び継続教育に関する支援活動の推進

CPD制度の創設から十数年を経て、学会CPD制度の任務が一層重大化していることから、審査の厳格性を確保しつつ、公正かつ透明性や業務効率の高い審査基準や手続きルール等を見直し、2021年度から新たなCPD制度の運用を始めた。

また、技術士法改正に伴う対応をするため、新設された「CPD活動関係学協会連絡会」に「技術士CPD実施法人」として参加し、日本技術士会が実施する技術士CPD活動実績の確認及び技術士登録簿への記載申請手続きができる「CPD取得証明書」の発行準備を進めた。

4. 建設系CPD協議会における建設系技術者の継続教育活動の支援活動

建設系CPD協議会の構成団体として、運営委員会3回、専門部会2回に出席し、建設系全体の技術者育成・継続教育の推進を図った。

X. その他必要な事業

1. 日本学術会議等との連携、交流

日本学術会議防災減災学術連携委員会及び（一社）防災学術連携体との情報交換を行った。また、福島再生・復興に関係した日本原子力学会や福島復興・廃炉推進に貢献する学協会の活動とも連携・協力した。

XI. 法人運営事項

1. 第 54 回定時総会

日 時：2021 年 5 月 26 日（月） 14:00～14:40

会 場：農業土木会館 2 階 A 会議室

代議員現在数及び定足数：現在数 106 名 定足数 53 名

出席者：代議員 89 名（うち出席 3 名、書面により議決権を行使した代議員 58 名、委任状により議決権を代理行使した代議員 28 名）

決議事項：

- (1) 2020 年度事業報告
- (2) 2020 年度決算
- (3) 名誉会員の推挙
- (4) 役員報酬の改正

2. 理事会

理事 20 名（会長 1 名、副会長 3 名、専務理事 1 名、ほか 15 名）及び監事 2 名により、第 264 回から第 267 回まで 4 回の理事会を開催するとともに、必要に応じて担当理事会を開催して多数の決議事項及び報告事項を承認可決した。

(1) 第 264 回理事会

日 時：2021 年 5 月 10 日（月） 14:00～15:45

会 場：農業土木会館 2 階 A 会議室

決議事項：

- ① 2020 年度事業報告(案)
- ② 2020 年度決算(案)
- ③ 2021 年度学会賞、上野賞及び沢田賞
- ④ 会員の入退会

そのほか、活動状況等 12 件の報告を行った。

(2) 第 265 回理事会

日 時：2021 年 9 月 22 日（水） 14:00～15:40

会 場：農業土木会館 2 階 A 会議室

決議事項：

- ① 2021 年度支部大会への本部役員派遣
- ② 会員の入退会

そのほか、活動状況等 13 件の報告を行った。

(3) 第 266 回理事会

日 時：2021 年 12 月 14 日（火） 14:00～15:30

会 場：農業土木会館 2 階 A 会議室

決議事項：

- ① 会員の入退会

そのほか、活動状況等 14 件の報告を行った。

(4) 第 267 回理事会

日 時：2022 年 3 月 16 日（水） 14:00～15:50

会 場：農業土木会館 2 階 B 会議室

決議事項：

- ①2022 年度事業計画(案)
- ②2022 年度収支予算(案)
- ③第 55 回定時総会の議案
- ④名誉会員の推挙
- ⑤会員資格喪失予定者
- ⑥会員の入退会

そのほか、活動状況等 9 件の報告を行った。

3. 企画委員会

委員長ほか委員 10 名により、2 回の委員会を開催し、事業計画案と予算案、事業報告案と決算案、その他学会全般の活動・運営について検討を行った。

4. 監 査

2021 年 4 月 20 日、長坂貞郎、亀井隆夫両監事が 2020 年度事業報告及び収支決算に関わる全般の監査を行い、その結果を第 264 回理事会並びに第 54 回定時総会に報告した。

5. 会員数

2021 年度及び過去 2 ヶ年度の会員数の動向は下表のとおりです。

区 分	2019年度末	2020年度末	2021年度末	2021年度内 増 減
正 会 員	9,390	9,538	9,726	+188
学 生 会 員	207	224	263	+39
名 誉 会 員	273	278	279	+1
計	9,870	10,040	10,268	+228
賛助会員 A 級	30	30	30	±0
〃 B 級	8	8	8	±0
〃 C 級	89	86	86	±0
計	125	124	124	±0

付記事項

2021 年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。